

謹賀

新年のご



対馬市長 比田勝 尚喜

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

また、日頃より市政に対しまして深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻により罪のない多くの命が犠牲となった悲しいニュースが報じられ、現在もその状況は続いております。さらに、ロシアは核兵器の使用も辞さないことを示唆しており、核戦争がまさに現実味を帯び、世界に緊張が走っています。このような行為は、国際社会の平和と秩序の根幹を脅かすものであり断じて許すことはできません。一刻も早く対話による解決が図られ、ウクライナの人々に平和が戻ることを切に願っております。

新型コロナウイルス感染症につきましては、令和4年も感染拡大による影響を大きく受けた1年となりました。本市におきましても、1日あたりの陽性者が100人を超えるなど、医療体制を含め、市民生活に多大な影響を及ぼしました。そのような中でも、これまで積み重ねられた知見や感染対策を徹底したうえで、市内各地でイベントが開催され、少しずつではありますが活気が戻ってきたことに安堵しているところでございます。今後も、国のウィズコロナに向けた政策の考え方にに基づき、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立に取り組んでまいります。

市内に目を向けますと、昨年4月30日には待望の対馬博物館が開館いたしました。平常展とあわせて、特別展や展覧会、各種イベントを開催するなど「対馬を伝え、交わりを生み、つないでいく」をコンセプトに博物館活動を展開しております。今後も、対馬の魅力を国内外に発信し、来島者を対馬各所に誘導する情報発信の場として、また、来館者が自主的かつ主体的に学ぶことができる学習支援活動にも積極的に取り組み、対馬の豊

かな自然、歴史、文化、芸術を未来に継承してまいります。

また、11月には「対馬の盆踊」を含めた41件で構成する民俗芸能「風流踊」がユネスコ無形文化遺産に登録されるという大変喜ばしいお知らせがございました。それぞれの地域の歴史と風土を反映し、多彩な姿で今日まで続く風流踊は、地域の活力の源として大きな役割を果たしてきました。対馬においても各地域で古くから踊られてきましたが、近年の担い手の減少や高齢化によって保存継承が難しくなり、現在はわずかな地域での伝承となっております。今回の登録を励みとして、対馬での盆踊の復活や保存継承に向けた課題の改善、未来を担う子どもたちへの普及啓発など、更なる取り組みの推進に努めてまいります。

現在、雄大な自然と歴史が残る対馬の魅力に多くの人々の注目が集まっています。金田城などオンリーワンの観光資源を核とした観光PRに取り組み、交流人口の拡大を通じて地域活性化を図るとともに、SDGs未来都市として、対馬固有の自然環境や文化を守っていく持続可能な観光に取り組んでまいります。

新たな年を迎え、任期2期目も間もなく残り1年となります。第2次対馬市総合計画に掲げる「自立と循環の宝の島 対馬」の実現に向け、引き続き、市民協働・市民主体のまちづくりに取り組んでまいりますので、本年も、市政に対しまして相変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様方にとりまして、活力に溢れ、笑顔が輝く素晴らしい年になりますよう心から祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

新年

あいさつ



対馬市議会議員 初村 久藏



新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、ご健勝で希望に満ちた新春をご家族おそろいでお迎えのことと心からお喜び申し上げます。令和5年の年頭にあたり市議会を代表いたしまして、ここに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

また、日ごろから市議会に対しまして、温かいご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

2022年を振り返ってみますと、世界中に激震が走ったロシアによるウクライナ侵攻がありました。今もなお戦争状態が続く中で、多くの子どもたちを含む尊い人命が失われる深刻な人道危機をまねいているのみでなく、世界の経済成長にも大きな影響を与えています。日本国内ではガソリン価格はもとより電気・ガス料金、食料品などの物価高騰の波が国民の家計を直撃している状況にあります。

新型コロナウイルス感染症は昨年も変異株の出現などにより感染拡大と収束の波が繰り返され、未だその戦いの終止符は見えておらず、今後はウィズコロナ、アフターコロナの生活様式への対応が必要となってきます。

一方、スポーツ界に目を向けますと2月に開催された北京冬季オリンピックで日本人選手が過去最高の18個のメダルを獲得。また、大リーグ大谷翔平選手の2年連続の大活躍、東京ヤクルトスワローズの村上宗隆選手の史上最年少での三冠王、記憶に新しいのがサッカーワールドカップでのドーハの歓喜と称された日本代表の活躍もあり、若い力が金字塔を多数打ち立て、日本人の活躍が世界から賞賛された年でもありました。

本市では、待望であった対馬博物館が4月末に開館いたしました。今後は対馬の豊かな歴史・文化などを未来に継承し、対馬の新しいランドマークとなることを強く願っております。また、年末

には対馬の盆踊を含む「風流踊」がユネスコ無形文化遺産登録、改正離島振興法の10年間延長が施行されるという明るい話題もありましたが、市職員による公金横領というあってはならない重大事件が発生し、市民の皆様には大変ご迷惑とご心配をおかけしたところであります。市議会としても市長部局と連携して再発防止策を徹底し、市民皆様の信頼回復に全力で努めてまいり所存であります。

さて、今、日本は世界に類を見ない速さで人口減少・超高齢社会に向かっており、コロナ禍で国も地方も大きく変革する中で、本市においても人口減少対策、子育て支援の推進、農林水産業の活性化対策、有害鳥獣の被害対策など、課題が山積しております。市議会といたしましても、これらの山積する課題に立ち向かいながら、まちづくりの主役は市民の皆様であることを第一に考え、対馬市の将来像であります「自立と循環の宝の島対馬」の実現と市民福祉の向上のため、議員一同、市民皆様の信頼と負託に応えられるよう、全身全霊で取り組んでまいり所存であります。そして、あらゆる世代が夢や希望を持ち、ともに成長でき、穏やかに暮らせる安全・安心のまちづくりを、市民の皆様と一体になって進めてまいりたいと決意しているところでございます。これからもご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新型コロナウイルス感染症の終息を願いつつ、新しい年が穏やかな年となることを心からお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。